

II. 総合人間科第三年次中学の実践報告

中1	中村明彦・今村敦司
中2	高須藤俊樹・原藤田順高
中3	柳鈴福木谷悠敏・寺井藤容

1. 中学1年

インタビューを中心とした生き方を探る活動について

中村明彦

【抄録】 本校へ入学した1年生が初めて体験する総合人間科の授業は、「生き方を探る」をテーマに展開される。教科書が無く、生徒自身が思考力・判断力を育てながら問題を提起し解決していく体験を通じた学習である。本年度も、コミュニケーション能力の育成を重点にさまざまな生き方を色々な世代からどのように調査したかを明らかにするものである。

【キーワード】 生き方、コミュニケーション、体験学習

I. 学年テーマについて

本年度も昨年に引き続き「出会いから学ぶ」をメインテーマに生き方に接する導入手段として実施された。

入学当初からさまざまな出会いが必然的に繰り返される中学一年にとて、このテーマは自分たちの生活にまさに密着したテーマといえる。それ故に、このテーマが引き継がれている理由である。ただし、総合人間科として企画された学年のキーワードのうち、中学一年生は「生き方」である。「出会いから何を学ぶのか」というと、「出会いから生き方を学ぶ」と答えられる。これが、中学1年のテーマのとらえ方である。

サブテーマとして、『色々な世代のさまざまな生き方を探る』とした。その背景には、さまざまな出会いの機会を積極的に作り、表面的な理解だけでなく、その人の考え方、価値観、生き方にまで接することにより、自分の生き方を考えられる事ができるような土台づくりをめざすものである。

出会いの対象を色々な世代として、同世代の者、先輩、高校生、身近な家族、同級生の家族、興味関心のある人というように段階を追った形で色々な世代のさまざまな生き方を探るものである。

II. 学年の目標

特定の限られた友達しか作れなかったり、幅の狭い交流しかできない中学生にさまざまな生き方を探るようなコミュニケーション能力を育てることが目標にあげられる。インタビューを多く導入し、コミュニケーションの練習の時期として位置付けられる。そして、その手段として「調査訪問・インタビュー」が生徒にとっての課題となる。さまざまな出会いの機会を作り人としての生き方まで接することにより、他人の価値観を尊重しながら自分の考えを確立して、自分の生き方を考えることができる力を育てていくことを目標とした。

III. 評価について

昨年度同様に、重点的に評価をする観点としては、体験・コミュニケーション能力と創造的表現力の2観点である。その中で、体験コミュニケーション能力の観点については、ペア学習による細やかなフィールドワークを数多く予定しているために、自己評価と相互評価またインタビュー相手による評価によるものである「誰を選ぶか」「何を聞くか」「何が聞きたいか」をペアになった二人がコミュニケーションを取りながら考えていくことから始められる。間違いや正解の無い課題であるため自分たちで決める

1. 中学1年 インタビューを中心とした生き方を探る活動について

ことになる。自分たちが結果を出さなければならない。ペア学習で、お互いの活動を分担し、まとめと発表を行い最終的には相互に活動に対する評価をさせる。特に、毎回のインタビューの後にその相手からインタビューに対する評価をその場でもらうことは、次回のインタビューに大変参考になり、自分たちの課題解決に有効に働いたと考えられる。

IV. 学習方法

《1学期》

附属学校内の先輩から学ぼう；
中学3年⇒高校1年⇒高校3年

《2学期》

両親の生き方を探ろう；
自分の親⇒友達の親

《3学期》

興味関心のある人の生き方を探り、体験する

1学期から2学期にかけては、2人組のペア学習として扱った。内容は、同級生調べから学校環境を利用したもので、中学3年、高校1年、高校3年までの世代の生き方や考え方をインタビュー調査発表とした。

中学3年生を選んだのは、義務教育最終学年として高校1年生は、高校入試を体験し新しい環境に挑戦している者として、高校3年生は、大学・進路を目前に将来をどう考えているかと言う立場として選んだものである。また、同級生の保護者への同様な調査を行い各世代を比較検討した。

3学期は、個人学習として興味関心のある人へのインタビュー調査とできれば生き方に触れる体験学習が実行できるフィールドワークを実践させた。これらの実践は、研究収録として文章によるまとめをした。

(1) [教室から飛び出せ]

生徒は、同じ価値観を共有する者としか交流しなかったり、同じ世代でも他の者は何を考えたか感じたりしているのか理解する機会もないといえる。まして先輩や保護者の考え方等に触れる機会はまったく無い。

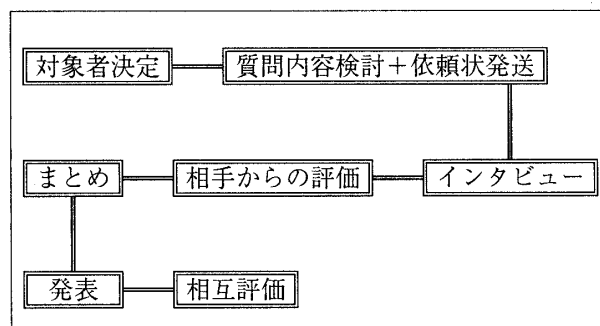
それゆえに、そのような機会をつくるために、教室から飛び出し、人と接する授業を進めていく段階を多く企画したのである。

本校は、中高一貫の学校であるため、この学校環境を利用したインタビュー活動を本年度新たに実施したのである。

訪問調査・インタビューの活動の流れとしては、

図のようになった。

図1



まずは同級生の良いところを引き出すインタビューをして、その内容を発表した。

身近な同級生とは言っても、名前・顔は知っているが、その他知らない面がある。そして、その人の良い所を引き出すためのインタビューという課題を与えたのである。もちろん、各自が質問内容を考えなければならないことになる。実施したのが、中学1年の学級づくりの時間であり、学級には色々な人間がいることが各自の内容から理解でき、教科にとられない発表のためか、個性豊かな発表もあり聞いていても飽きないものになった。この導入段階を経て、この学年は、色々な世代とコミュニケーションをとるために教室から飛び出した。

(2) [意識してコミュニケーションする]

中学1年生にとっては、上級生（中学3年高校1年・高校3年生）との交流に何らかの違和感をもっている様子であった。今の生徒は横のつながりを強調するあまり、縦のつながりを敬遠するのであろう。この授業を通して、上級生の考えに少しでも触れられることができれば、状況は少しずつ変わるかもしれない。

この時期より、個人ではなく2人組による取り組みとして実施した。これは前年度の反省でもあり、個人での課題追求（質問内容を考える）には限度があると思ったからである。2人組にしたことで、お互いの考えを表面に出すことになる。自分が感じたり、考えたりしたことを他の人に伝えていく中で、お互いの共通点を知り自分の見方を広げたり、深めたりしていくことができる。お互いの思いや考えを尊重しながら伝え合っていくなかで深められていく。お互いを大切にしながらも個性の伸長を図るというコミュニケーションが、質問事項を考えるという場面でも行われる。そして、お互いの聞きたいことが、含まれるような質問事項が完成する。

各上級生に同じ質問をして、考え方の違い価値観

の違いを比べる質問内容が主になり何を題材に質問するかでお互いの意見を出し合う状況が見られた。質問によって分担する組も出てきた。中学3年生のインタビューが終わり、事後アンケート(調査相手からの評価)用紙から、自分たちのインタビューが相手にどのように受け入れられたのか確認した。話をしただけに止まらず、相手からの反応は生徒にとって重要な判断材料になったと思われる。

やりっ放しでなく、相手からの評価が次へのステップとなり、自分たちの問題を解決する手がかりとなるのである。例えば、「事前に質問内容が分かれば話しやすかった」「数多くの質問を連続するのではなく、もう少し突っ込んだやりとりをしたかった。」という内容である。生徒は、考えてきた内容をどんどん質問することしか頭に無かったようであり、話を聞くことの大切さをインタビュー相手から教えられたといえる。

この指摘で聞きたかった内容が聞けなかったのはなぜか、どうしたら良いか考えて次回の上級生へのインタビューにいかされたのである。コミュニケーション能力は何度も体験することから育つ力といえる。

(3) [ぼくたち生徒の授業]

V. 取り組み

回	日付	内 容	備 考
1	4/11	ガイダンス・次回の説明	合同で図書館
2	4/17	偶然出会った隣の子に聞いてみよう。(良い所を見付ける)；インタビュー	学級活動で
3	4/19	偶然出会った隣の子を皆に紹介しよう。；インタビューした内容を発表。感想記入。	各学級
4	5/13	調査聞き取りの方法について事前指導；教師が悪い事例を寸劇で紹介する	合同柔道場
5	6/7	先輩の行き方を探る①；中学3年生へのインタビュー	体育館図書館
6	6/21	先輩の行き方を探る②；高校1年生へのインタビュー	昼休み
7	7/17	先輩の行き方を探る③；高校3年生へのインタビュー	短縮の学科活
8	9/6	中学3年～高校3年生のインタビュー総まとめ・発表準備	
9	9/20	各学級での発表会；発表に対する感想意見を記入	各学級
10	10/4	発表に対する意見をまとめる。	各学級
11	10/14	各保護者に対しての依頼状書き	各学級
12	10/23	野外学習行程及びインタビュー内容検討	各学級
13	11/1	保護者の行き方を探るフィールドワーク	各訪問地

インタビューした内容をどうやってまとめるか、どうやって発表するか。コミュニケーションを取りながら、生徒が工夫している様子がよく分かるのが、このまとめと発表である。

紙芝居、ペープサート、劇、B紙に絵を描く、実物投影機を使う、BGMを流す、コント風にする。それぞれが工夫している準備をする姿は生き生きしている何だかお互いが競い合っているようにも感じるのである。

間違いはなく、正解もないという自分たちが調べてきたこと、考えをありのままに表現しようと生徒は伸び伸び準備を行っている「個性豊か、そして表現力豊か。」そんな発表が行われた。1回目の発表より2回目の発表の方が、ポイントを外さずに行き方・考え方を含めて自分たちなりに判断しお互いの意見を交換した結果であると思う。

2回目の発表は、公開授業で行われた。その中で、授業が始まる直前に司会進行を申し出る生徒が現れた。予定では教師が行うはずのものであったが、彼らに任せてみると、発表者の簡単なプロフィールを入れ紹介し、質問を受け付けたりして、難なく発表会を進めていったのである。彼らにとってこの授業は、ぼくたち生徒の授業だと誇らしげに司会している姿に見えた。

回	日付	内 容	備 考
14	11/6	同級生の保護者へのインタビューのまとめ	学級活動で
15	11/15	発表準備；研究協議会に向けて。	学級活動で
16	11/21	「色々な世代の行き方を探る試み中間発表」	中等教育研究協議会
17	11/29	発表の続き+興味関心のある人についての準備	各学級
18	12/6	興味関心のある人の発表(選んだ動機、理由)年内に案内状、依頼状作成し発送	各学級
19	1/31	興味関心のある人へフィールドワーク1	各訪問地
20	2/7	興味関心のある人へフィールドワーク2	各訪問地
21	2/21	インタビューのまとめ	各学級
22		1年間のまとめ「研究集録の原稿作成」第1集「色々な世代のさまざまな生き方について」第2集「興味関心のある人の生き方について」	

1. 中学1年 インタビューを中心とした生き方を探る活動について

資料1

「興味関心のある人の生き方について」の集録より。訪問相手一覧

< A組 >

(集録タイトル)

- ・それぞれの生き方
- ・コンピューターを扱う職業の人の生き方を探る
- ・TV報道は真実を伝える
毎日が子供達との真剣勝負
- ・ナースのお仕事について探る
美容師さんにせまる
- ・お客様に美を与える
- ・読者へ感動を配る
- ・ラジオの新時代を担う人々の生き方を探る
- ・コンピューターを扱う仕事の人の生き方を探る
マンガを書く人の生き方を探る
- ・陸上選手へのインタビュー
- ・ゲームを作る人の考え方
コンピューターを使う人へのインタビュー結果
- ・興味と勉強を両立させてきた先生の生き方を探る
夢をあたえる職業の人の生き方を探る
- ・ナースのお仕事について探る
戦争体験者の生き方を探る
- ・大変だけど楽しい仕事・イルカと人間
- ・宇宙の謎を探る人の生き方を探る
- ・バレエ教師の生き方を探る
- ・コンピューター関係の人々へのインタビュー
- ・将来の先輩の生き方を探る
- ・スポーツをやっている人の生き方を探る
- ・アニメーターの生き方を探る
戦争体験者の生き方を探る
- ・人を助けるということについて
- ・文学に魅せられた人の生き方を探る
- ・あこがれの人へのインタビューをして
- ・職業についてくわしく教えてもらう
- ・情報を早く正しく視聴者に提供する職業人の生き方を探る
人々に視野を広げるチャンスを与える職業人の生き方を探る
- ・イルカと気持ちを伝えあう仕事
- ・動物を育てる職業人の生き方を探る
野球に人生を捧げた人の生き方を探る
- ・声楽家の生き方を探る
- ・世の中の秩序を守る
動物の命を守る人の生き方を探る
- ・声楽家の生き方を探る
- ・本当の感謝の気持ちを探る
- ・陸上をする先生・バスケットをする先生の生き方
- ・コンピューター扱う仕事
人の生命を助ける仕事外科医を生き方をさぐる
- ・文学に魅せられた人の生き方を探る
自分の技術を人のために役立てようとする人の生き方を探る
- ・教師としてランナーとして生きる人の生き方を探る
- ・自分の夢を描く人の生き方を探る
人の気持ちに気を配る人の生き方を探る
- ・人々に情報を伝える職業
- ・アニメーションを作る人々・昔を探る人々
- ・人とのコミュニケーションが大切な2つの仕事について
- ・機械の最先端を行く人の生き方を探る

(訪問相手)

- ；陸上駅伝監督・警察署刑事
- ；コンピューター製作・コンピューター学園HAL 教員
- ；報道記者
- ；元幼稚園教諭
- ；名大看護学校講師
- ；美容師
- ；美容師
- ；漫画家
- ；ラジオDJ・ラジオ番組スタッフ
- ；コンピューター学園HAL 教員
- ；代々木アニメーション学院教員
- ；41~42
- ；コンピューター学園HAL 教員
- ；コナミコンピュータエンタテイメント
- ；本校教員
- ；元中日ドラゴンズ選手
- ；名大看護学校講師
- ；先輩の祖父
- ；ダイビングインストラクター・イルカ調教師
- ；名大理学部宇宙物理学教授
- ；バレエ教師・小学校恩師
- ；コンピューター製作・コンピューター学園HAL 教員
- ；通訳を職業とする人
- ；陸上駅伝監督(愛教育大)
- ；代々木アニメーション学院教員
- ；先輩の祖父
- ；名大看護学校講師・歯科助手
- ；名大言語文化部・文学部教授
- ；ファッション専門学校教員・雑誌記者
- ；本校教員・名大文学部教授
- ；報道記者・
- ；雑誌記者
- ；ダンピングインストラクター・イルカ調教師
- ；動物園飼育係
- ；元中日ドラゴンズ選手
- ；声楽家・合唱サークル講師
- ；警察署刑事
- ；獣医
- ；声楽家・合唱サークル講師
- ；消防士・バスの運転手
- ；陸上駅伝監督(愛教育大)
- ；コンピューター学園HAL 教員
- ；名大医学部第2外科助手
- ；名大言語文学部教授
- ；名大農学部資源植物環境学
- ；陸上駅伝監督(愛教育大)
- ；漫画家
- ；美容師
- ；ラジオDJ／番組スタッフ
- ；代々木アニメーション学院教員
- ；小学校恩師・美容師
- ；名工大ロボット製作担当教授

資料2

<B組>

- ・教師の生き方を探る
 - ・仕事を楽しくしてきた人の生き方を探る
 - ・老後の人々のために働く人の生き方
 - ・特別養護老人ホームで働く寮母さんの生き方を探る
 - ・目標とする人の生き方
 - ・テレビで情報を伝えている人の生き方を探る
 - ・身内の人の生き方を探る
 - ・人の思いを伝える達人の生き方を探る
 - ・動物いのち
 - ・ニュースを伝える人・スキーチューンナップの店の人
 - ・命の重みを学んだ獣医さんの生き方を探る
 - ・音楽・PEOPLEに聞いた素晴らしき人生
 - ・人の病気を治す手伝いをする人の生き方
 - ・他人の才能を伸ばす立場の人の生き方
 - ・大学生の素顔に迫る
 - ・“白衣の天使”の生き方を探る
 - ・私達の未来をあずかる“教職者”へのインタビュー
 - ・教師をめざす人の生き方を探る
 - ・自分の祖母の考え方について
 - ・小学校の先生の生き方を探る
 - ・食と農とを考える人の生き方を探る
 - ・こどもを相手にする先生の生き方を探る
 - ・医者のような養護の先生の生き方を探る
 - ・身内の人の生き方を探る
 - ・人の足となる交通機関にたずさわっている人の生き方を探る
 - ・教育者の考えを探る Part 1・Part 2・小学校恩師
 - ・サッカーを教える人の生き方考え方を探る
 - ・(無題)
 - ・I Like children
 - ・人の役に立つ職業人の生き方を探る
 - ・人の命をあずかる職業人の生き方を探る
 - ・子供たちに色々なことを教える人の生き方
 - ・駅をまとめる人の生き方を探る
 - ・動物の生命を担う人の生き方
 - ・見えない電波の中でのコミュニケーション
 - ・子供の成長を見守る仕事
 - ・珍しい職業の人の考え方を探る
 - ・THE・ナース
 - ・教師であり親である人の生き方を探る
 - ・戦争体験者の生き方を探る
 - ・興味のある人へのインタビュー
- ；小学校恩師
 - ；福祉関係者
 - ；福祉関係者
 - ；熱田神宮事務職員
 - ；東海テレビアナウンサー
 - ；祖母
 - ；小学校恩師
 - ；東山動物園飼育係
 - ；アナウンサー・スキー愛好家
 - ；名古屋大学工学部・獣医
 - ；楽器店店長
 - ；薬剤師
 - ；服飾専門学校デザイナー
 - ；名大理学部院生
 - ；看護婦
 - ；大学教授
 - ；名大理学部院生
 - ；小学校恩師
 - ；無農薬野菜店店長
 - ；小学校恩師
 - ；養護教諭
 - ；名鉄江南駅駅長
 - ；サッカークラブ指導者
 - ；漫画家
 - ；小学校恩師
 - ；看護婦
 - ；小学校恩師
 - ；駅長
 - ；動物病院医師
 - ；アナウンサー
 - ；幼稚園教員
 - ；かつら職人
 - ；外科婦長
 - ；小学校恩師
 - ；親類
 - ；塾の先生



VI. 生徒の感想

- 何かに縛られることなく、自由な発送で発表することができ、本当に良かった。今回のインタビューで満足のいく充実した気持ちになった。それは、勉強なんかよりも、もっとずっと大切な何かだった。言葉に表せない、難しそうなものだ。でも、実はとても簡単で「心の成長」に他ならない。公立中学校では体験できないものを、この総合人間科という授業がくれたことを忘れない。
- 総合人間科で学んでことはとても多かったと思う。それに、自分を見つめ直したり、今後の人生のアドバイスを先輩たちがしてくれてとても良かった。親についても知らなかったことを色々聞けたし、これまでより感謝することが多くなった。
- わたしは、この4回のインタビューで今まで考えもしなかった「年令にあった大人への旅立ち方」を学んだ。それは、幼稚園の頃から、友達とのトラブルを経験しながら、大人になるにつれて必要となってくることを保護者の方々から学び、年令が高くなるにつれて「自分のしたい事がはっきりし、将来の事も前向きに考えるようになり、自分の考えがはっきりと人に言えるようになる」ということである。わたしは、このような生き方を教えてくれた先輩たちや保護者の方の良いところを自分のこれからの生き方反映できるように努力して、大人という、こどもとは違う世界へ旅立つことができるといいと思う。
- わたしがインタビューをして、一番興味深かったのは、「保護者へのインタビュー」でした。いつもお母さんに怒られたとき「わたしの気持ちなんて、全然考えてくれない。」と思っていたけど。今回のインタビューをしてみて、おかあさんの気持ちや考え方が分かって良かった。
- 色々な人にインタビューして、それぞれの生き方に触れてみて、一番つよく感じたことは「生き方に形は決まっていない。自分自身で作り上げていくものいつ、何が起こるか。わからないから、作っていく意味がある」とわたしは思います。
- 色々な世代のインタビューを通して、小さい頃の夢が今自分を育ててきたような気がします。ほくも、生き方で悔いのない、自分に誇りを持った大人になりたい。そして、保護者のインタビューで学びとったものは計り知れません。まず、子育てにあっても個性を強くということで「自然に親しみを持たせたり」「のびのびとしてほしい」。こんなふうに育てられ今の自分がいることは幸せだと思うし、親に感謝しなければと実感しました。

- 「わたしは勉強も苦手だし、自分のやりたいことも余り見つからないしなんだかやだな。」と思っていたときに、それぞれ違う世代の人から、色々なことが聞けたり、色々な場所に行けたりしてよかった。総合人間科でわたしが一番学んだことは、「人とのコミュニケーション」です。わたしは、この学校に来て、先輩たちはみんな明るいし、色々な学生の人とも仲がいいし、「すごいなー。」と思っていましたが、この学校の先輩方は、人とのコミュニケーションを大切にしているからだと思いました。わたしも、この授業で大きく変わったら良いと思います。色々なことを学びました。



VII. まとめ

「出会いから学ぶ・生き方を探る」という主題で中学1年生の総合人間科を2年続けて担当して、1年目より2年目の方が、生徒にとっても担当した教師にとっても取り組みやすいものだったといえる。その要因のひとつには、インタビューを中心としたコミュニケーションを前面に出し、体験学習として生徒自身の経験による能力の蓄積ができたからではないかと思う。

その背景には、各インタビューの後に必ず相手からのコメント評価がされ、自分たちの取り組みに刺激となり、工夫となって次回インタビューに生かされたからといえる。ただし、これは系統的に前年度から行われた内容であるものを、今年度は数多く利用できたことになる。また系統的に行ってきたものには、インタビューの悪い例を教師が寸劇で行った事前指導や、興味関心のある人への訪問調査である。前年度は興味関心のある人の対象として親を選んだものが多くあったことが、今年度の色々な世代の布石になったことは事実である。

今年度のサブテーマ「色々な世代のさまざまな生き方を探る」は、附属学校ならではの学校環境と生き方を探るためのインタビューの取り組みが段階を

1. 中学1年 インタビューを中心とした生き方を探る活動について

名古屋大学教育学部附属中学校1年担任団

調査(インタビュー)に関する事後アンケート

この度、お忙しい中を名古屋大学教育学部附属中学校で新しく取り組んでいる、「総合人間科」=出会いから学ぶ～色々な世代のさまざまな生き方を探る=の授業にご協力くださりましてありがとうございます。
調査(インタビュー)にうかがった生徒の状況について、下記の項目の該当する箇所(○)をご記入ください。

回答される方の氏名 []

インタビューの雰囲気はどのようでしたか。
あはれやすかつた まあ どちらとも いえなし ちよつと よくなかつた くらげ ぬるげ

生徒の質問内容は理解できましたか
大げ や どちらとも いえなし ちよつと よくなかつた まったく ぬるげ

生徒の聞く態度はどうでしたか
大げ や ちよつと よくなかつた まったく ぬるげ

生き方に触れるような内容を生徒は質問しましたか。
十分に ぬるげ ちよつと よくなかつた まったく ぬるげ

今回の調査(インタビュー)についての感想。
【特に良かったところ(インタビューは強制)】

今回の調査(インタビュー)について、ご要望・ご意見。
【改善する点(インタビューは強制)】

ご協力ありがとうございました

名大附属中学1年保護者の皆様へ

1997.10.14
中学1年担任団(藤・柴・岸・柳)

総合人間科(中1)へのご協力をお願いします

突然ではありますが、標記の件について、よろしくご協力のほどをお願いいたします

本学中学校1年生では、これまでに総合人間科の取り組みのひとつに「色々な世代のさまざまな生き方を探る」と題して、同級生・中学3年生・高校1年生(公立中出身者)・高校3年生・同級生の保護者・職業人というさまざまな世代の人に直接会って、インタビューをする活動をはじめました。

前回までの活動では、

- 1)附属中学3年生の協力をいただき、中学3年生の今現在意識していることと考えていることや、中学1年だったときのことをインタビュー。
 - 2)公立中学出身の附属高校1年生を対象として、附属中学の生徒では分からない、公立中学の生活や授業の様子や受験を経験した感想、また、今の生活についてとか、価値観や考え方が多岐に亘ったインタビュー。
 - 3)進路・受験を目前にした高校3年生にも、今現在のこと、今までの生活のなかでの考えやこれからの生き方についてインタビュー。
- などを行いました。それぞれの世代に同じ質問をして世代の違いで異なった考え方があるのかなど、系統的に質問項目を考えているものもあります。

今回は、同級生の保護者の皆様これまで生き方・考えていたことなどをインタビューするために直接ご自宅に訪問いたします。

生徒が書いた手紙では、訪問する目的が書かれていなかったり、説明不足の部分があったのではないかと存じます。もしその様なことがありましたら、当日お渡しする事後アンケートに、率直な意見をお書きください。今後改善してまいりたいと存じます。

なお、当日の交通費等は生徒の自己負担になりますので、ご了承をお願い致します。

【実施日時】平成9年11月1日(土)。(もし都合が悪ければ11/2・11/3で)都合の良い時間帯が有りましたら、生徒を通じて担当者にご連絡ください。

中学1年 総合人間科 【インタビュー事後アンケートのまとめ】

二年 組氏名()番 ()番

インタビューした人の名前	中学3年「 」	高校1年「 」	高校3年「 」
事後アンケートの質問項目	中3の回答	高1の回答	高3の回答
・インタビューの雰囲気はどのようでしたか			
・生徒の質問内容は理解できましたか			
・生徒の聞く態度はどうでしたか。			
・生き方に触れるような内容を生徒は質問しましたか。			
・インタビューについての感想 【特に良かったところ】			
・インタビューについての要望、意見。 【改善する点】			

中学1年総合人間科 【インタビューのまとめ】 姓 _____ 年 _____ 組 氏名()番 _____ ()番 _____

インタビューした人の名前	中学3年「 _____ 」	高校1年「 _____ 」	高校3年「 _____ 」
インタビューの具体的な内容(質問内容)	中3の回答	高1の回答	高3の回答

中学1年総合人間科野外学習行動計画書

()組()番 氏名()
ペア氏名()

1 訪問地

訪問地名	時	訪問先の場所	予定訪問時間
1	/ ()		~
2	/ ()		~

交通費合計 ()円

2 行動予定

11月1日(土) 8時30分 学校集合
人員点呼、諸注意
9時 学校出発(この日に訪問しない生徒は学校で自習)
予定がすべて終了したら学校の担任に報告して解散する。
何かトラブルがあったら、すぐに学校に連絡する。

記入例

寄合方	時間	注意事項	
<table border="1"> <tr> <td>乗り換え地 又は 訪問地名等 すること</td> <td>交通手段 所要時間 料金</td> </tr> </table>	乗り換え地 又は 訪問地名等 すること	交通手段 所要時間 料金	<ul style="list-style-type: none"> 乗り換える時間をとること(5分~10分) 駅をはさんで行動する時は、居場所を考慮すること 交通機関の少ないところは余裕をみてそこに着くようにするとともに、乗り遅れた時のことも考えておこう 11月1日に訪問しない場合も訪問する日の予定を記入すること
乗り換え地 又は 訪問地名等 すること	交通手段 所要時間 料金		
<p>10:10~10:40</p> <p>9:00 学校 徒歩 5分 新橋 徒歩 15分 八重 徒歩 7分 新橋 徒歩 20分 13:50 徒歩 5分 14:00 徒歩 1分</p> <p>200円 200円 200円 100円</p>			
<p>12:00~12:00</p> <p>徒歩 5分 徒歩 5分 新橋 徒歩 30分 徒歩 3分 14:00 徒歩 1分</p> <p>200円 260円 100円 交通費計 1060円</p>			
